

東京文化会館

平成29～38年度
指定管理者

提案書類（事業計画書）

団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

所在地 墨田区横網1-4-1

代表者名 日枝 久

本提案書類は、指定管理者選定要項に基づき平成28年5月時点で計画されたものであります。今後東京都の施策や社会情勢の変化を踏まえ、都と綿密に協議し、提案内容を適宜見直しながら、年度の事業計画を立案してまいります。

目次

課題1	〔前期指定期間（平成21～28年度）の総括〕	1
<hr/>		
課題2	〔管理運営の基本方針〕	
<hr/>		
1	管理運営の基本方針と達成目標について	4
	（1）基本方針と達成目標	4
	（2）館の機能の総合的な発揮	11
	（3）東京文化ビジョンの実現に向けた取組	13
	（4）東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組	16
2	国内外の施設等との連携の取組（ネットワーク化の推進）について	18
<hr/>		
課題3	〔事業に関する業務〕	21
<hr/>		
1	芸術文化の振興に関する事業について	21
	（1）魅力的な公演等の実施に向けた方針	21
	（2）教育普及活動	30
	（3）人材の育成	34
	（4）平成29年度・平成30年度の事業計画	38
2	施設の利用について	42
	（1）実施方針と貸館の運営戦略	42
	（2）使用申請及び使用承認の仕組み	44
	（3）利用料金	45
	（4）舞台運営業務	47
3	調査研究の取組について	49
	（1）調査研究の取組	49
	（2）音楽資料室の運営	50
4	館の事業を支える仕組みについて	51
	（1）広報	51
	（2）来館を促進する取組	53
	（3）外部意見等の取り入れ	55
	（4）ニーズの把握と対応	56
	（5）外部資金の導入等による事業の充実	57

課題4	〔館の運営に関する業務〕	58
1	休館日及び開館時間について	58
2	館内サービスについて	59
	(1) 来館者への基本的なサービス	59
	(2) レストラン及びショップ等の運営	61
	(3) 館内ホスピタリティ等の充実	62
課題5	〔組織及び人材〕	63
1	効果的かつ効率的な執行体制の確保について	63
2	明確な責任体制の構築について	66
3	専門性を支える人材の配置について	67
4	人材育成の取組について	69
課題6	〔館の管理その他に関する業務〕	70
1	館の管理について	70
	(1) 施設等の管理業務	70
	(2) 危機管理	86
2	地域等との連携の取組について	89
課題7	〔自由提案〕	90

提案課題1 [前期指定期間(平成21～28年度)の総括]

前期の指定管理では、**劇場法の制定**を受け、公立文化施設も貸館だけでなく文化振興に積極的な役割を果たすべきとの法の趣旨を踏まえ、**自主事業の充実**に精力的に取り組みました。施設運営では、民間事業者の高度な舞台管理技術とお客様対応力を活かし、**ハード(老朽施設)の限界をソフト(知恵)でカバーし、主催者と観客・聴衆の2つのお客様にご満足**いただけるよう取り組みました。貸館運営においても、**継続的に一流劇場等によるオペラやバレエ公演を戦略的に誘致し、最高水準の舞台芸術の鑑賞機会を数多く創出**しました。このような劇場は**日本で唯一**であり、その**事業展開は国内外からの注目を集めました**。

1. 自主事業

劇場法の趣旨を踏まえ、自主事業を体系立てて大幅に充実しました。都立文化施設として、民間施設では**実施しない・しづらい領域に役割を見出し、創造・発信、育成・支援、次世代への投資の3本の柱を立てて、着実に事業を推進し、先駆的な幅広い事業展開を実現**しました。

(1)「創造・発信」

新たな音楽芸術を創造し、音楽ファンの拡大を図るため、**既成の音楽ジャンルや表現形式にとらわれず、創造性・独自性にあふれる作品を、積極的に制作し、発信**してきました。

これまでに、『古事記』を舞台版オペラとして日本で初演したことに始まり、『万葉集』を題材とした委嘱作品の創造、日本舞踊とオーケストラとのコラボレーション、さらには、宝塚歌劇団のトップスター、世界的なバレリーナをソリストとして出演させ、日本舞踊とバレエとオーケストラのコラボレーション、小ホール空間を最大限に活用した、新進音楽家の活躍の機会を創出した「オペラBOX」の積極的な展開等、先進的・挑戦的な公演を実施しました。

また、ジャズピアニスト小曽根真さんとクラシックオーケストラとのコラボ企画は、当館の企画公演から火が付き、ご自身の**平成25年度(第64回)芸術選奨 大衆芸能部門 文部科学大臣賞**に繋がると共に、いまや人気企画となり様々な主催者により公演がなされています。

オリンピック・パラリンピックに向けて、海外の制作スタッフ・アーティストとの連携も図りつつ、文豪や伝統芸能、古典など「日本」にも焦点を当て、創造性・独自性の高い作品の幅広い制作を進めています。

(2)「育成・支援」

「東京音楽コンクール」を基軸に、才能あふれる新進演奏家の発掘と育成・支援を図りました。

コンクールは、**活性化・国際化**に向けて、参加に際し**国籍・居住地を不問とし、全審査部門に外国人審査員を起用、1次審査から憧れの文化会館ホールでの演奏機会の提供、本選出場枠の拡大**など、取組を進めました。道半ばではありますが、**海外からの応募、応募者数の増が実現**しました。

また、コンクール入賞者に対しては、主催事業で積極的に起用し、リサイタル、オーケストラとの共演など、**出演機会を幅広く提供**しており、**入賞後の支援が厚い**ことも参加者の魅力として定着しました。

過去の優勝者・入賞者が、国内あるいは海外の主要コンクールで入賞実績を上げることも増えています。

今後も東京音楽コンクールの国際化、活性化に向け、取組を進めます。

(3)「次世代への投資」

次世代の子供たちに音楽や舞台の楽しさを体験してもらい、豊かな感性を育むとともに、将来の**音楽ファン、音楽家の育成、音楽文化の継承・発展**を図るため、**コンサートや体験教育ワークショップなどを実施**しました。

小中学校を訪れるアウトリーチによるコンサートや演奏指導では、わかりやすさ・親しみ易さ・楽しさを意識しつつ、プロの演奏の素晴らしさを体感できるよう工夫しました。

平成24年度からは、「オペラBOX」と連動した**舞台芸術の制作に参加する「オペラをつくろう！」**を開始し、青少年やその家族、プロを目指す学生等に生きた現場を体験する機会を提供しました。この取組は舞台芸術の理解を深めるのみならず、青少年のコミュニケーション能力の向上にも大きく寄与しました。

また、平成25年度からは、ポルトガルの音楽施設「カーザ・ダ・ムジカ」と連携して**音楽教育ワークショップ**を開始しました。ポルトガルのプログラムの実施からスタートし、**現在は、自前のワークショップリーダーの育成、文化会館オリジナルプログラムの制作**まで展開を広げてきました。子供、親子、大人まで、幅広い方々に、身体を叩いて音を出すような気軽なプログラムから、音楽の楽しさを実感していただいています。音楽体験のほか、参加交流としても大切な機会であり、心を開く、社会性の涵養にもつながるものと評価しています。この取組は、**海外の劇場の教育プログラムネットワークRESEO**にも注目され、今後の展開を期待されています。

今後は、音楽の力を社会的課題の解決に活用すべく、高齢者や障害者に向けたオリジナルプログラムの企画制作・実施に取り組めます。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題1 [前期指定期間(平成21～28年度)の総括]

2. 貸館事業

「NOと言わない舞台管理」のスタンスで、安全を確保しつつ主催者要望に最大限に応え続けることで、強い信頼を勝ち取り、引き続き、**国内外の最高水準の公演の誘致**を実現してきました。特にオペラ・バレエは、首都圏随一の劇場として、海外の名だたる公演が開催され、お客様にご満足いただける良質な公演ラインナップを提供しました。このような日常的に優れた舞台芸術を提供できる劇場は国内唯一であり、輝き続ける『舞台芸術の殿堂』としての役割を十二分に果たすことができました。

施設のコマ稼働率も、大ホールは概ね9割、小ホールは8割台半ばと、指定管理期間を通じ、高い稼働率を継続して達成しております。

また、来場者に対しては、高齢者や障害者への対応など十分配慮し、お客様の立場に立ったホスピタリティ溢れる柔軟なサービスを提供し、満足度の高いサービスを提供できたと考えております。

3. 開館50周年記念フェスティバル

平成23年度の「開館50周年記念フェスティバル」では、主催事業として初となる本格的な**オペラ公演「古事記」**を日本初演しました。日本を代表する作曲家・黛敏郎の伝説のオペラ作品を初めて紹介し、大きな反響を呼びました。

大ホールにおける**式典**の実施、国内外の一流アーティスト等を招聘した「ガラコンサート」の開催や、小ホールを活用したコンクール入賞者、地域の学生等による**幅広いコンサートの開催**のみならず、**50年の歴史の展示**や地域商店会等の協力を得た大ホールホワイエにおける地元の物産店による販売や、伝統芸能の体験等のオープンスペースとしての活用等、施設を最大限活用した取組となりました。

この50周年事業におけるオペラ公演や大規模コンサート開催を礎として、平成24年度に施行された劇場法に則り、自主事業を大きく展開し、今日に繋がっています。

4. 大規模改修工事

平成26年度の**大規模改修工事**では、都、財団、工事関係業者との緊密な連絡調整、綿密な計画により、円滑な工事の実施と迅速なリニューアルオープンを実現しました。

耐震補強や施設・設備の更新により、安全性と快適性が向上した当館で行われた**オープニングセレモニー**は、**貸館主催者の協力**も得て実施し、**音楽コンクール入賞者によるファンファーレ**が華を添えました。

リニューアル記念公演として『日本舞踊×オーケストラ第2弾』である宝塚歌劇団のトップスターや世界的なバレリーナをソリストとして起用した舞台芸術作品を実施し、計画的・戦略的な広報により2日間に亘る大ホール公演を満席に導き、柿落としを成功させました。

休館期間中は、**他の文化施設との連携**により**主催事業の最大限の実施**に努め、**目標を3割以上上回る自主事業入場者数を達成**するとともに、機材・機器等のメンテナンスや、接遇研修、館の課題検討PTなど、休館期間中だからこそ実施できる取組を進め、リニューアル後の運営に向けて各セクションのスキルアップを実現しました。

5. 音楽資料室の活発な活動

音楽資料室は、専門図書室として、音楽資料の収集・保存とともに、閲覧・視聴、レファレンスサービスにより、都民あるいは専門家の芸術文化活動を支援しています。

IT化の流れを踏まえ、**収蔵資料の目録や当館の過去の公演情報をインターネットで公開し、利用者の利便性の向上**を図りました。

音楽資料室だよりの発行、ツイッターによる情報発信、1階ロビーでの**資料展示**、資料を活用した**講座の開催**など、資料室の認知度を高め、より多くの方にご活用いただくための働きかけを積極的に実施しました。

6. 公立文化施設との連携

当館は、全国の公立文化施設の連携のもと、地域文化の振興とわが国の文化芸術の発展に寄与することを目的に組織され、1300近い文化施設が加盟する公益社団法人全国公立文化施設協会の会長館を務め、ネットワークの中心として、全国の公立文化施設を牽引してまいりました。

また、都内文化施設との連携による教育プログラムを先駆的な取組として新たに展開し、今後は更なるネットワークの拡大が見込まれているだけでなく、軽井沢大賀ホール等の地方文化施設とも、事業の提供や企画協力等により幅広い連携が求められていることから、引き続き、日本の舞台芸術の拠点として、我が国の文化芸術の発展と心豊かな社会の実現に寄与していきたいと考えております。

7. 総括

平成24年度の劇場法の制定を受け、文化振興に積極的な役割を果たすべく、自主事業の充実を図り、精神的に展開してまいりました。今後、全国を牽引する文化施設として、長期的な視野のもと、クオリティーを重視しながら公益性の高い自主事業を幅広く展開し、最高水準の舞台芸術の鑑賞機会を継続して提供する、更に魅力ある館運営の実現に向けて積極的な事業展開を行ってまいります。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題1 [前期指定期間(平成21~28年度)の総括]

(1) 東京都指定管理者管理運営状況評価

老朽化した施設において安全に管理運営を行い質の高い公演を実施していること、自主事業について企画の創造性が高く新たな舞台芸術作品の創造に挑戦していることなどが評価され、継続してA評価以上と高い評価を受けました。平成22年度の東日本大震災発生時には日頃の訓練の成果を活かし多数の帰宅困難者の受入を円滑に行ったことも評価されています。特に、平成23年度には、50周年記念事業を中心に多彩な自主事業を展開して文化会館ブランドの向上を実現する一方で、貸館事業についても90パーセントを超える高い稼働率を達成したことが評価され、S評価を受けました。

指定管理者管理運営状況評価

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26
総合評価	A	A	S	A	A	A

〈区分〉

評価区分S: 管理運営が優良かつ特質すべき実績・成果

評価区分A: 管理運営が良好

評価区分B: 管理運営が一部で良好でない

(2) 東京文化会館外部評価委員会

東京文化会館の事業運営や効果を劇場・ホールの運営責任者、音楽芸術の専門家、地域商店街・都民代表等の視点から評価することによって改善に資するため、館長の諮問機関として、「東京文化会館外部評価委員会」を設置しています。委員からは、「舞台芸術の殿堂」として、国内外の名だたる芸術団体・アーティストによる公演を通じ、首都東京からの発信力を高めるために果たしてきた役割、「民間」では実現困難な意欲的な企画の数々を自主事業として展開し成果を上げている点などが評価され、継続してA評価を受けました。

東京文化会館 外部評価委員会

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26
総評	A	A	A	A	A	A

〈区分〉

評価区分A: 目標を十分に達成し、成果を上げている

評価区分B: 目標を概ね達成している

評価区分C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である

(3) 定量目標の達成状況

オペラ・バレエ・クラシックコンサートなどの公演に使用される大ホールと、室内楽・リサイタルの公演に使用される小ホールの各ホールにおいて、最高水準の国内外の公演を厳選・招致しながらも、高い稼働率を維持し続けています。また、自主事業の入場者数についても、平成24年度以降、アーツカウンシル事業を館の主催事業として積極的に行っており、目標を達成し続けています。

施設稼働率(コマ稼働率)

(単位: %)

施設名	目標	H21	H22	H23	H24	H25	H26
大ホール	90.0	88.1	88.9	91.8	91.7	88.4	88.7
小ホール	80.0	84.1	84.5	83.5	83.3	84.2	86.0

自主事業入場者数

(単位: 人)

目標	H21	H22	H23	H24	H25	H26
65,000	63,453	55,080	63,752	68,034	69,608	53,084

23年度目標値は59,000人。26年度の目標値は37,500人である。

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について

(1)基本方針と達成目標

1. 管理運営にあたって

東京文化会館は、『都民のための音楽、演劇、歌劇、舞踊等の芸術文化の振興とその国際的交流を図るため』、“舞台芸術の最高峰を提供するホール”として、昭和36年に開館しました。以来、名実ともに数々の名演の舞台となり、多くの方々に大きな感動を与えてまいりました。

(1) 良質公演の鑑賞機会の提供と質の高いホールサービス

当館の運営において、貸館での世界有数の公演は大きな魅力であり、「音楽・舞台芸術の殿堂」との評価を築いた、館の中核的な価値であると考えております。今後とも、これまでに積み上げた信頼関係を活かし公演を誘致するとともに、安全・安心を確保しつつ、高い舞台技術・提案力により本物の演出を実現し、主催者・観客の双方のお客様にご満足いただくこと、公演の質に見劣りしないホスピタリティ・サービスでお客様に快適にお過ごしいただくことに尽力し、さらなる館の価値向上を図っていきます。

なお、観客の高齢化等によるオペラ、バレエ等の海外招聘公演の動向を見極めつつ、クラシックコンサート等についても誘致していきます。

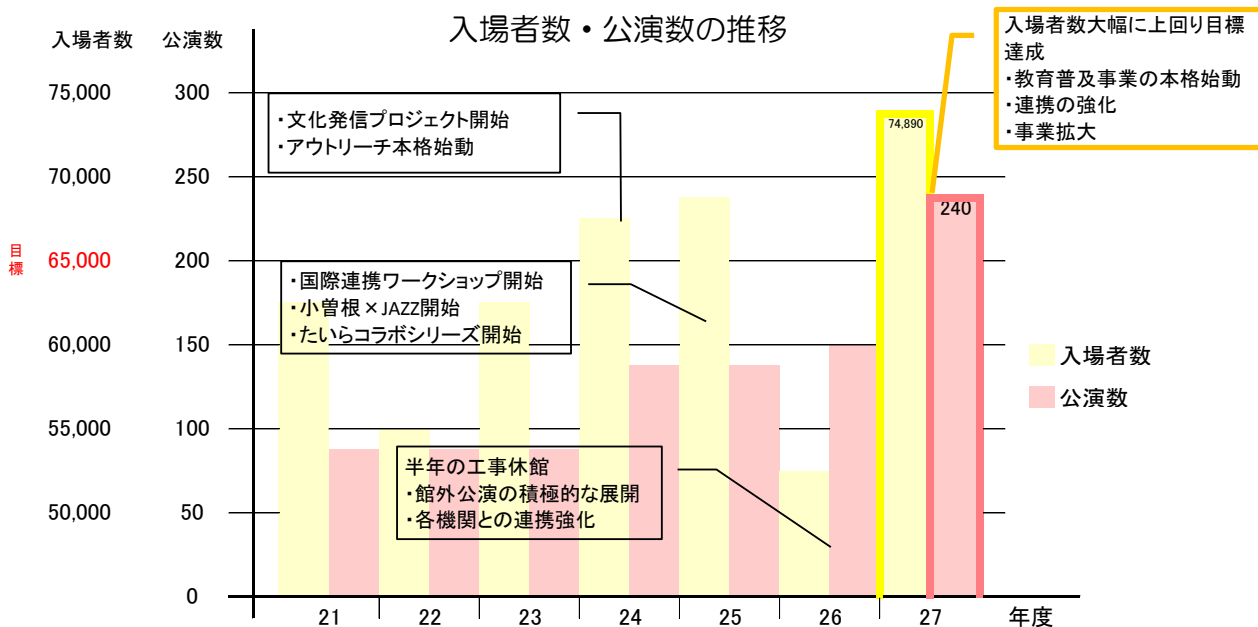
(2) 公立文化施設としての積極的な自主事業の展開

劇場法の制定を契機に、公立文化施設には、文化芸術の振興や、文化芸術の力を活用した社会的課題の解決に向け、積極的な自主事業の展開が求められております。当館は、貸館公演との役割分担を意識し、公立文化施設として、民間団体では実施しづらい領域を意識して事業展開を拡充してきております。①創造発信として、音楽・舞台芸術の可能性や新たな顧客の拡大を狙った作品の制作・発信を、②教育普及として、無料・廉価で優れた演奏に触れる「音楽への入口体験」や、学校へのアウトリーチ等、「次世代への投資」を行うほか、③新進演奏家等の育成にも取り組んでいます。気軽な音楽体験をしつつ、参加・交流で社会性を養うワークショップは、ポルトガルのカーザ・ダムジカと連携して進めており、④社会的課題の解決を意識し、0歳児からの子供、青少年、子育て世代に加え、高齢者、障害者に向けた展開を始めています。

こうした自主事業への入場者数は、平成22年度の約5.5万人から年々拡大し、27年度は、過去最高を5千人以上上回り、約7.5万人に達しました。特に、ワークショップは、国際連携を開始してから3年で、参加者が約3,800人に達するなど、事業ニーズが顕著であり、当館の実施内容に係る他館からの照会等も多くなってきています。

「社会包摂」、「社会的課題解決への取組」は、「東京文化ビジョン」の重要な文化戦略であり、ワークショップオリジナルプログラムの制作、ワークショップリーダーの育成、実施規模の拡大を進め、当館の柱となる事業へと育てていきます。また、関心はあるものの、体力・ノウハウの少ない都内あるいは他県の劇場・ホールへのプログラム提供等を行い、取組の全国的な実現にも貢献していきます。

ワークショップを始め、先に記した当館の自主事業の展開領域は、都が定める「東京文化ビジョン」において、当館の新たな運営方針として掲げられたものに即しており、後述のとおり、着実に取組を充実してまいります。



事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
(1)基本方針と達成目標**(3) 多様な機能と魅力を活かす**

当館は、公演のためのホールのほか、音楽の専門図書館である音楽資料室、会議室、リハーサル室など、総合舞台芸術施設としての機能が充実しており、建物自体も、日本の代表的な建築家である前川國男氏の設計によるモダニズム建築の傑作であり、東京が世界に誇る貴重な財産であると認識しております。こうした機能や魅力を活用し、より多くの方々の来館を促進し、来館を契機に音楽舞台芸術への接触を図ります。

(4) 目指すべき姿

東京文化会館は、高水準の舞台芸術を鑑賞でき、「満ち足りた芸術体験」の時間を過ごせる空間であり続けます。こうしたお客様を大切にしつつ、音楽・舞台芸術の素晴らしさをより多くの方々に味わっていただけるよう、「音楽への入口体験から本格鑑賞・演奏への橋渡し」をするとともに、乳幼児から青少年、子育て世代、高齢者までのあらゆる世代、障害者、外国人等様々な個性を有する方々にとって「参加交流」できる「広場」となり「社会包摂」のための「居場所」となることを意識していきます。

今期指定管理にあたり、東京文化会館の目指すべき姿を以下のように考えます。

- ① **新たな舞台芸術を創造・発信し、新進音楽家等の専門人材の育成や次世代あるいは潜在的顧客への教育普及などの投資に取り組み、芸術文化の継承・発展に貢献するとともに、芸術文化の力を活用した社会包摂・社会的課題の解決に向けた取組を進める**
- ② **良質公演の鑑賞機会の提供と質の高いホールサービスにより、50年以上の歴史と伝統を誇る“音楽・舞台芸術の殿堂”としての価値をさらに向上させる**
- ③ **①②の推進及び多様な魅力と機能の活用により、より多くの人々に集い親しまれる劇場を目指す**

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
 (1) 基本方針と達成目標

2. 管理運営のイメージ



事業者名・団体名

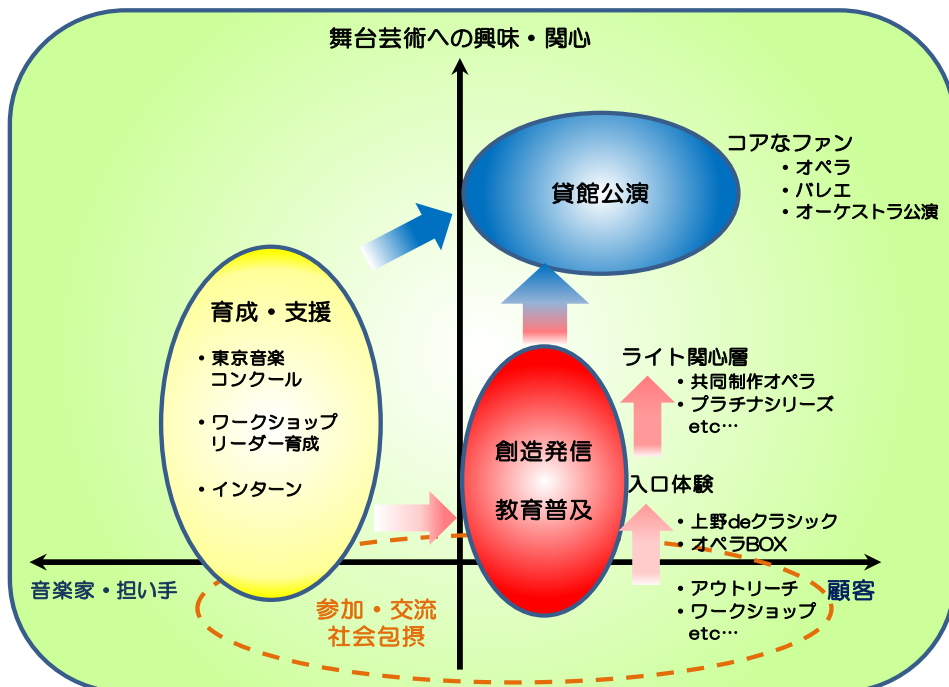
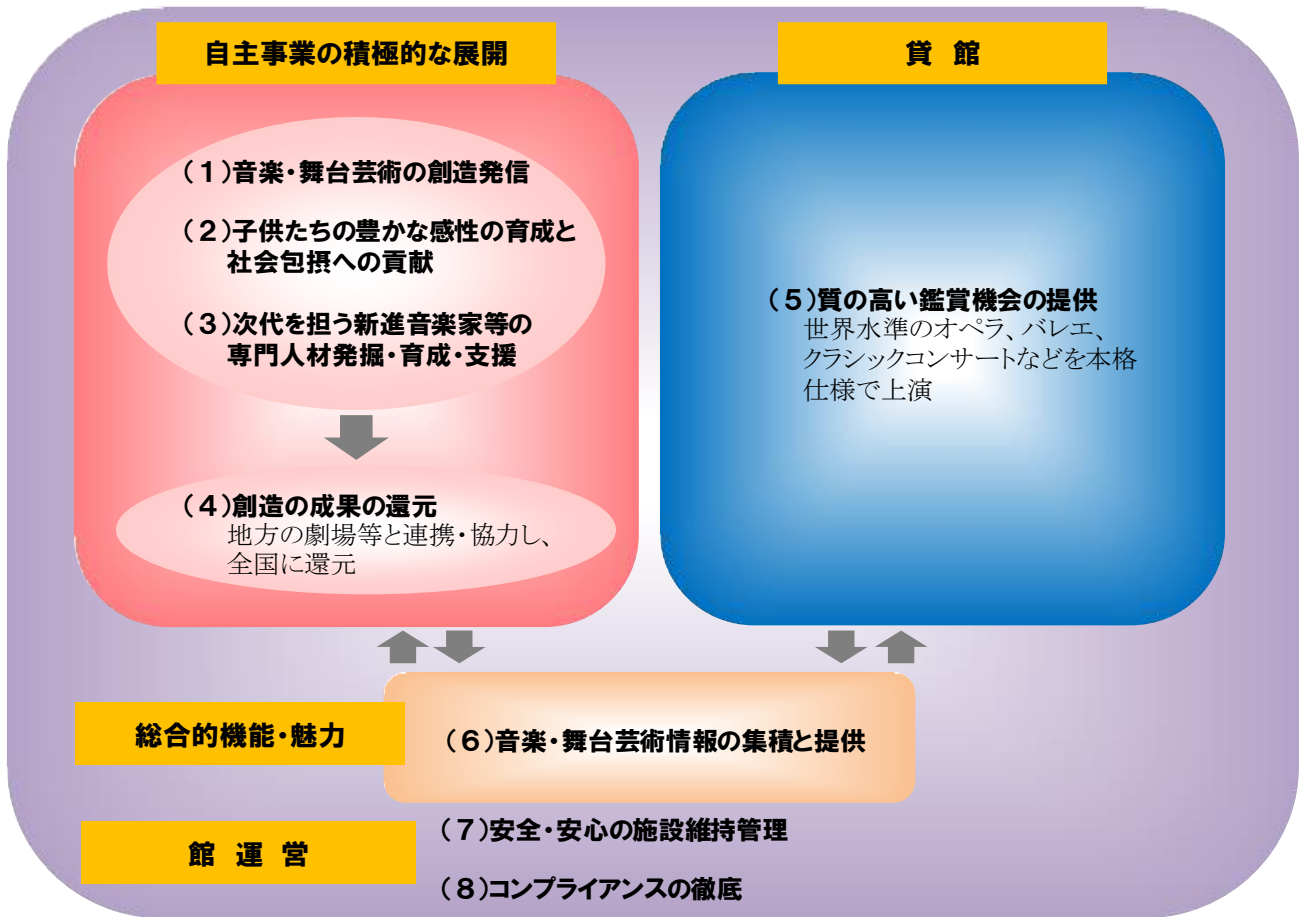
公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について

(1)基本方針と達成目標

3. 基本方針

私たちは東京文化会館の設置目的と指定管理者に求められる役割を十分に理解し、「東京文化ビジョン」が定める東京文化会館に係る「新たな運営方針」に即して、次の8つを10年間の指定管理期間における「基本方針」として館の管理運営に取り組んでまいります。



事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について

(1)基本方針と達成目標

(1) 音楽・舞台芸術の創造発信

音楽・舞台芸術の殿堂としての知名度や地の利を生かし、創造的・社会的・教育的な自主事業を展開します。既成の枠に捉われず、舞台空間の創造の可能性を探求した作品を国内外の一流の演出家・出演者等とともに創り上げ、音楽・舞台芸術の魅力を発信します。

(2) 子供たちの豊かな感性の育成と社会包摂への貢献

子供たちの音楽・舞台芸術への豊かな感性を育み、芸術文化の次世代への継承・発展を図るとともに、障害者や社会的に孤立した状況にある人々などの社会的な包摂を図るため、音楽・舞台の喜びの体験や芸術家との直接の触れあい等を伴うアウトリーチ活動や参加体験型のワークショップなどを積極的に企画し、広く展開します。

(3) 次代を担う新進音楽家等の専門人材発掘・育成・支援

「東京音楽コンクール」の一層の充実などにより、世界で活躍可能な才能を持つ新進音楽家を発掘します。発掘した音楽家については、自主事業での起用やオーケストラとの共演などを通じて発表の機会や場を提供し、芸術性と社会性を備えたアーティストへと育成していきます。

また、次代の舞台芸術を支えるアートマネジメント人材や、教育プログラムの牽引役であるワークショップリーダー、舞台技術の継承者等の専門人材を育成します。

このような取組を地域を代表する東京藝術大学を始めとした諸大学とも連携しながら、若手の活躍する機会を創出していきます。

(4) 創造の成果の還元

創造の成果を多くの人々、特に子供や青少年に発信し、次代を支える新たな顧客を創出するとともに、挑戦的で優れた作品を積極的に提供するなど、自主事業の成果について地方の劇場等と連携・協力しながら全国に還元します。

(5) 質の高い鑑賞機会の提供

50年以上の歴史と伝統を有する音楽・舞台芸術の殿堂として、高い技術力と高度な貸館運営によって世界水準のオペラ・バレエ・クラシックコンサートなどを本格仕様で上演し、国内外のアーティストに他施設では実現できない特別な公演の場を提供するとともに、都民に質の高い鑑賞機会を提供します。

当館ならではの世界水準の公演を広く若手に提供するために、貸館主催者との連携によるリハーサル公開やバックステージツアー等を開催し、提携した大学の学生や児童向けに提供していきます。

(6) 音楽・舞台芸術情報の集積と提供

音楽・舞台芸術情報の一大集積地として、音楽・舞台芸術に関する価値ある情報を的確に収集・整理・提供して音楽愛好家や研究者等の活動をサポートし、日本の音楽界全体の水準向上に寄与します。

(7) 安全・安心の施設維持管理

公の施設として利用者や来場者が安心して施設を利用できるよう安全面には特に配慮し、予防保全的メンテナンスを実施します。また利用者に対しては設備・機器の利用方法などの確かなアドバイスを行い、施設予約から搬出まで円滑な運営を第一に考えていきます。

なお、東京文化会館が歴史的価値の高い建造物であるということも十分に認識し、改修や修繕にあたっては、建物の良さや価値を活かしながら同時に利便性の向上を図るよう計画的に進めていきます。

(8) コンプライアンスの徹底

東京文化会館及び東京芸術劇場条例をはじめとする各種法令等の遵守を徹底するとともに、当財団が定める個人情報の保護に関する規程やプライバシーポリシーを遵守するなど、コンプライアンスの確保に努めていきます。

また、管理運営を通じて指定管理者に委譲される権限等の行使についても、東京都の行政サービスの代行ということを常に念頭におきながら、適正な管理運営に努めていきます。

事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団
----------	-----------------

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について

(1)基本方針と達成目標

4. 達成目標

これまでの館の運営にあたっては、ホールの高い稼働率や「東京音楽コンクール」等の主催事業に代表されるように、優れた実績を残してまいりました。私たちは公の施設としてより多くの来館者、利用者が最高のサービスを受けられるよう創意工夫に努め、さらなる高みを目指していきます。

そのため次の目標を定め、その実現に努めてまいります。

(1)定性目標

1 音楽・舞台芸術作品の創造・発信

国内の舞台芸術の創造発信拠点として、既成の舞台芸術の枠に捉われず、新たな舞台空間の創造の可能性を探求した作品を国内外の一流の演出家・出演者等と創り上げるなど、人々に音楽舞台芸術作品の魅力を幅広く発信し鑑賞者の裾野拡大を図ります。

2 音楽の楽しさを体験し創造性や協調性を育む参加型教育プログラムの実施による音楽文化の振興と社会包摂への貢献

あらゆる人々が音楽を媒体として体験・参加することで舞台芸術の喜びを享受し、豊かな感性やコミュニケーション能力を育む機会を創出することで生きがいを持った豊かな生活の実現とともに芸術文化の次世代への継承・発展に寄与します。

3 次代を担う新進演奏家等、若手専門人材の発掘・育成・支援

「東京音楽コンクール」の国際化を推進し、才能溢れる新人音楽家を幅広く発掘します。
舞台芸術の次代を担うアートマネジメント、ワークショップリーダー、舞台技術者等の専門人材を育成します。
これらの若手人材が将来の文化創造の推進力となるよう様々な研鑽の機会を提供し、日本の芸術文化の振興に寄与します。

4 創造の成果の還元

創造した舞台芸術や参加型プログラム、育成した人材は様々な機関との連携を通じて都内各地および全国に還元します。

5 質の高い鑑賞機会の提供

「音楽の殿堂」と呼ばれる文化施設として、国内外の最高水準の公演を誘致し、ご来場のお客様に常に満足していただける公演ラインナップと満ち足りたサービス空間を提供いたします。
施設設備の万全のメンテナンスを実施し、高度で確かな技術力とサービスで円滑な公演運営を強力にサポートいたします。

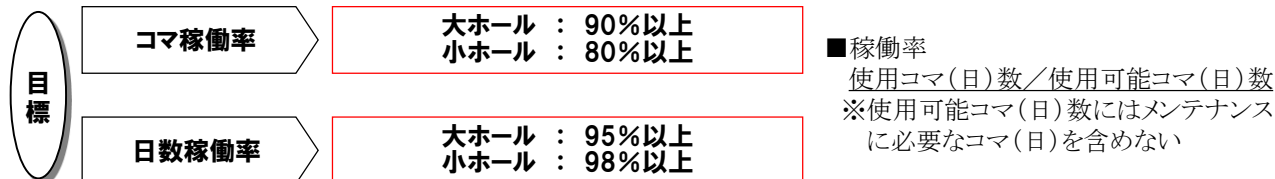
(2)定量目標

最高水準の国内外の公演を厳選・誘致し、いつでもご来場のお客様にご満足いただける公演ラインナップと満ち足りたサービス空間を提供いたします。

利用者である主催者やアーティストに対しては、万全のメンテナンスの舞台機構や音響・照明装置、楽屋空間とともに、それを支える高度で確かな技術力とサービスで円滑な公演運営を強力にサポートいたします。

老朽化の進む施設で、来館者・利用者の安全と安心を確保するため、ホールごとの保守点検を定期的に行ってまいります。稼働率は、施設の維持管理に必要なメンテナンス日を確保した上で、最大限の目標を設定します。

このように来場者・利用者双方に対し最高の満足を提供することにより、東京文化会館及び公演のステータスをさらに高めていくとともに、これまでの高い稼働率を維持していきます。



※これまでの実績を踏まえ、定量目標を当面は上記のように設定します。

なお、今後の都の文化施策や社会情勢の変化等の事情を鑑み、東京都との事前協議の上、適切な目標を設定してまいります。

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
(1)基本方針と達成目標

5. 10年間の展望について

指定管理期間の10年間で、都の文化政策の動向や環境の変化に対応し密接に連携しながら、東京文化会館の基本方針に則り、様々な事業を計画的に展開してまいります。

指定期間 スケジュール	前期5年間					後期5年間									
	平成29 2017	平成30 2018	平成31 2019	平成32 2020	平成33 2021	平成34 2022	平成35 2023	平成36 2024	平成37 2025	平成38 2026					
課題	東京芸術祭取組⇒大々的展開					開館60周年									
音楽・舞台芸術の創造発信	<ul style="list-style-type: none"> ・オペラや多ジャンルのコラボ等の舞台芸術を創造 ・クラシックと日本の伝統文化の融合した作品等、唯一の舞台芸術の創造 					<p style="text-align: center;">東京文化会館開館60周年記念事業の実施(オリンピック・パラリンピックのレガシーとして継承)</p> <p style="text-align: center;">前期の取組の効果検証、総括 ↓ 指定管理事業計画の見直し(後期5年分)</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・オペラ等の舞台芸術の創造を継続・拡充 ・クラシックと日本の伝統文化の融合した作品等、唯一の舞台芸術の創造拡充 				
	⇒国内外ネットワーク構築 ⇒伝統の認知度向上・海外へ発信										⇒国際的な創造発信拠点へ 多様な芸術体験機会の創出				
創造の成果の還元	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外での共同制作 ・館外での活発な活動 多摩地域での公演実施 アウトリーチの充実 ・多様な連携による全国巡回へ 										<ul style="list-style-type: none"> ・国内外共同の舞台芸術の創造拡充と巡回 ・定期的な館外事業 多摩地域公演の連携と拡充 アウトリーチの充実 ・多様な連携による全国巡回を拡充 				
	⇒国内外ネットワーク構築 ⇒都内から全国へ還元										⇒東京からの国際的な芸術発信による 多様な交流の創出				
子供たちの豊かな感性の育成と社会包摂への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラムの国際交流 ・教育機関との連携 ・社会的包摂への取組 特別支援学校との連携開始 高齢者プログラム開始 										<ul style="list-style-type: none"> ・国際的な教育プログラムを全国に還元 ・教育機関との連携強化 ・社会的包摂への取組拡充 特別支援学校との連携強化 高齢者プログラムの拡充 				
	⇒0歳児から劇場体験者増 ⇒社会的弱者の芸術体験増 ⇒都内各地～全国へ拡散					⇒芸術文化が生む壁のない交流の促進 ⇒全国地域での取組へ									
新進若手の発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・東京音楽コンクールをアジア圏にアピールと国際化の拡充 ・ワークショップリーダーや舞台芸術専門人材の育成 					<ul style="list-style-type: none"> ・東京音楽コンクール入賞者の海外での活躍の場を創出 ・ワークショップリーダーや舞台芸術専門人材育成の全国への波及 									
	⇒音コンのアジア圏認知度UP ～優れた演奏家の参加増 ⇒日本各地の人材が学び巣立つ～日本各地で活躍					⇒世界に羽ばたく新進演奏家の輩出による 芸術文化都市東京の国際的アピール ⇒日本各地の劇場の活性化に寄与、 豊かな芸術体験の拡散									
質の高い鑑賞機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の一流劇場によるオペラやバレエ公演の誘致 ・一流のコンサートの誘致 					<ul style="list-style-type: none"> ・海外の一流劇場による継続したオペラやバレエ公演の上演 ・戦略的貸館によるオーケストラ等のコンサートも上演回数が増加 									
	⇒継続的な質の高い芸術体験の提供～日本唯一の劇場					⇒世界の一流の劇場と同機能を持ち、 且つ、世界中の一流に出会える、 稀有な劇場として人々の豊かな時間を提供									
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団														

(仮称 東京芸術祭)として多角的に事業を展開
史上最大の文化プログラムの実現

後期の取組の効果検証、総括 ↓ 次期指定管理提案書作成(想定)

文化プログラムのレガシーを継承し、芸術によるあらゆる人々の豊かな心の醸成に貢献

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について (2)館の機能の総合的な発揮

日本におけるモダニズム建築の旗手・前川國男の設計により、斬新な外観とともにすみずみの意匠にもメッセージが込められた美しい内装をもつコンサートホールとして1961年(昭和36年)4月に開場した東京文化会館。以来、55年に渡り、オーケストラの音色を響かせ、オペラ、バレエなど舞台芸術の感動を生み、多くの人々の記憶に刻まれて続けています。東京文化会館の歩みは、すなわち、日本におけるクラシック音楽の歴史に重なります。

本格的な舞台装置や演出を伴うオペラ、バレエの公演を行えるだけの舞台機構を備えると同時に、最高レベルの音響効果を持ち2303席のキャパシティを誇る大ホール。「奇跡の音響」という代名詞を持ち、独特の雰囲気を持つ空間で音に包まれるような極上の時間を過ごすことのできる小ホール。日本を代表する音楽ホールとして首都東京の文化の柱にそびえたつこの「音楽の殿堂」の持つさまざまな機能を活用し、その魅力を最大限に発揮するためさまざまな取組を行います。

「舞台芸術の殿堂」として複合的な機能を活かした取組を行います。

わたしたちは、館の管理運営にあたり、館全体としての魅力を向上するために、

- 大ホールを活用したオペラ、バレエ、オーケストラ、コンクール等の主催事業及び貸館公演
- 小ホールを活用したリサイタルやアンサンブル、新進演奏家の発掘・育成等の主催事業及び貸館公演
- 音楽資料室における楽譜、音源、映像図録、関連図書の閲覧
- リハーサル室や会議室におけるワークショップへの参加
- 公演内容に沿ったオリジナルグッズの販売など、豊富な品揃えのギフトショップにおけるショッピング、レストランでの食事など、2つのホールと付随する施設を活用した質の高い「舞台芸術」を「鑑賞する」することを基本に、「学ぶ」「楽しむ」ことのできる空間として、来館者が居心地よく、意義深い時間を過ごすことができるように、取組を行っていきます。また、新たな舞台芸術の創造、人材育成等の自主事業を通じて「生まれ」た作品や人材を「育て」、世界へ向けて「羽ばたく」環境を整えてまいります。

1. 「鑑賞する」

大ホール、小ホール及びこれらの附帯施設を活用し、来館者がオペラやバレエ等のクオリティーの高い舞台芸術やコンサート等の公演事業を堪能できる空間を確保します。

また、これ以外にホールのホワイエを活用したコンサートやワークショップ等の事業を行うなど、一体的に活用してまいります。

2. 「生まれ育てる」「羽ばたく」

クラシック音楽の演奏家を目指す若者にとってあこがれの舞台である大ホール、小ホールを、新進演奏家等の発掘・育成にも活用してまいります。コンクールの審査会場として、入賞後の披露演奏を行う場として、そして世界に通用するアーティストとして活躍するために育つ会場として、新進音楽家のファンの鑑賞の機会としても機能します。

また、新たな舞台芸術の創造・発信の会場として、教育プログラムの実践の場としても活用いたします。この会場で生まれた作品が、国内外の文化施設へも羽ばたく機会を創出する場とします。

3. 「学ぶ」

4階音楽資料室では、約13万3千点に及ぶ楽譜や音源、映像、音楽に関連する図書や資料を備え、音楽・舞台芸術に関心を深めるためのスペースを提供してまいります。また、音楽資料室内に、資料検索システム端末を設置し、来館者に情報を提供します。

時代のニーズに沿ったデータベース化やアーカイブ化も促進し、学生や若い世代の認知度を高めると共に専門家にも利用しやすいシステムを整えてまいります。

更に、会議室等においても資料を活用した講座を開催するなど、「生涯学習の場」としても展開いたします。

4. 「体験する」「創り育む」

小ホール、リハーサル室やホワイエ、会議室では、バラエティ豊かなワークショップを開催します。0歳児から高齢者、障害者等、ジャンルを超えた音楽をツールとしたワークショップにより楽しさを体験し、音楽や芸術に対する関心を高めながら自己表現力やコミュニケーション能力を養う機会を提供します。このような体験の場が、社会的な課題の解決の糸口に、また「生きる力」を育む機会となるよう事業を展開してまいります。

また、舞台の裏側を紹介・体験するバックステージツアーを実施し、観客の関心と理解を深める機会となる取組を行います。オペラやバレエを上演する施設ならではの、舞台芸術の創作過程に参加するワークショップも開催し、様々な角度から体験し創り育む機会を創出します。

事業者名・団体名

公益財団法人東京都歴史文化財団

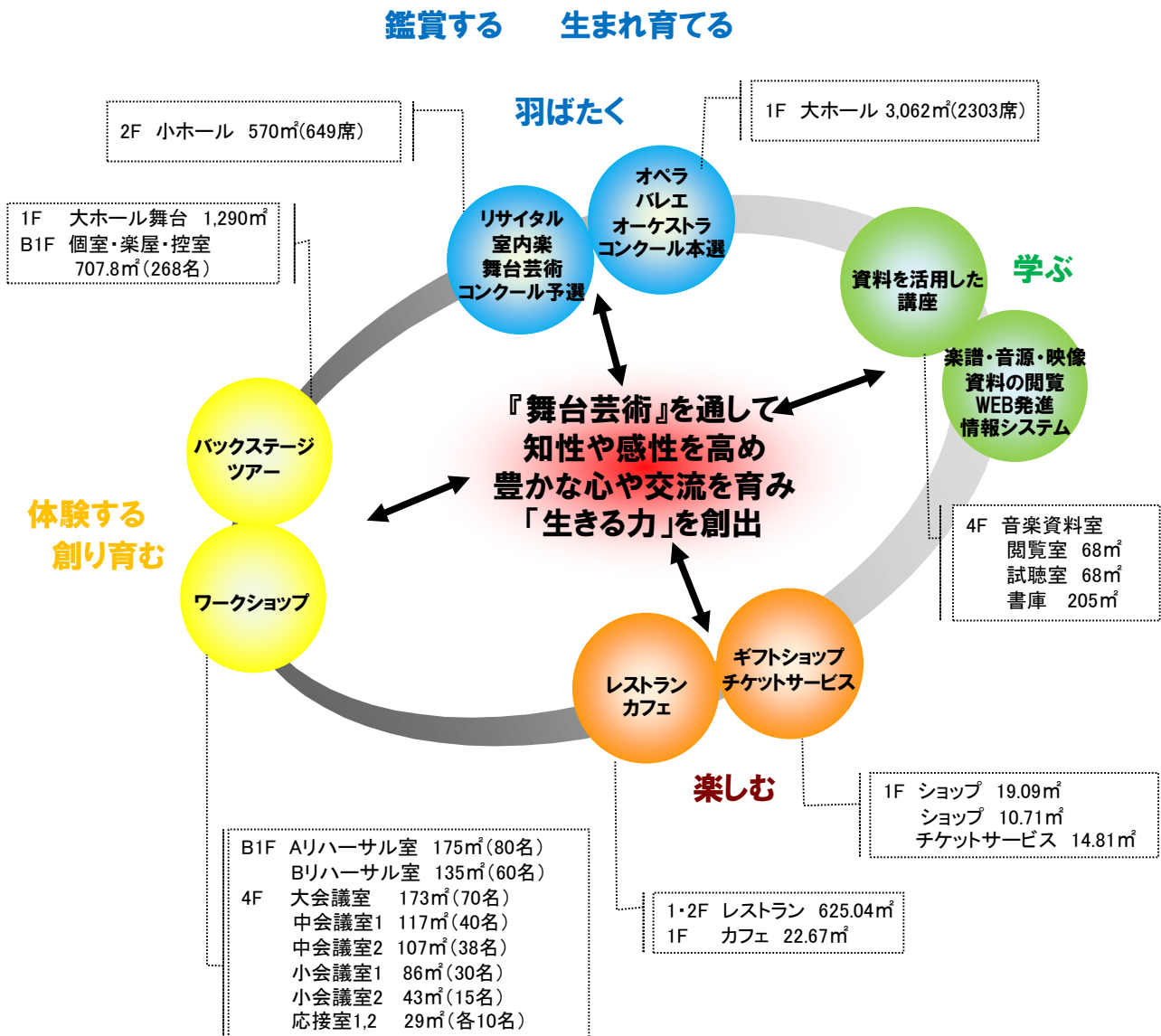
提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
(2)館の機能の総合的な発揮

5. 「楽しむ」

1階のギフトショップやカフェ、2階にレストランを確保し上演するオペラやバレエ、コンサートと関連した商品を販売していくとともに、公演前後のくつろぎのスペースを来館者に提供していきます。また、来館者の次の鑑賞のスムーズなチケット購入のために、チケットサービスを設置します。

6. 基幹的な管理運営

その他、良好な状態で館を管理運営するためのスペースを確保して、来館者サービス、自主事業、貸館事業を行ってまいります。



提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
(3) 東京文化ビジョンの実現に向けた取組

実施方針

東京文化ビジョンの実現に向けて、東京都が設置する都立文化施設の「舞台芸術」の創造発信拠点として、下記のように貢献してまいります。

文化戦略	文化ビジョン実現に向けた取組	主な展開	基本方針
1	<p>伝統と現在の共存・融合・・・東京の独自性と多様性追求～世界発信</p> <p>○「舞台芸術の殿堂」として優れたオペラ・バレエ上演を継続しながら、その知名度や地の利を活かし、創造的な自主事業を展開します。 ○ホームページの刷新や広報誌、プレス等の従来型の活動に加え、多言語対応など国際広報スキームを構築し、国際発信力を高めます。</p> <p>・既成の枠に捉われず、舞台空間の創造の可能性を探求した作品を国内外の一流の演出家・出演者等とともに創り上げ、音楽・舞台芸術の魅力を発信します。 ・「日本」に焦点をあて創造性・独自性の高い作品を制作し発信します。 ・オリンピック・パラリンピックのフェスティバル「東京芸術祭(仮称)」では新たな舞台芸術が華をそえます。 ・高い技術力と高度な貸館運営によって世界水準のオペラ・バレエ・クラシックコンサートなどを本格仕様で上演し、国内外のアーティストに他施設では実現できない特別な公演の場を提供するとともに都民に質の高い鑑賞機会を提供します。</p> <p>・ホームページを刷新し、海外、障害を持つ方々にもアクセスできる環境を整えます。 ・既存の広報誌を見直し、多言語化対応を図ります。</p>	<p>・舞台芸術創造事業の強化 【日本と舞台芸術】 【国際交流】【国内外へ発信】 ・五大陸オペラ(仮称)共同制作</p> <p>・人形劇×現代音楽 【招聘公演誘致】</p> <p>広報の拡充</p>	1 . 5
2	<p>多彩な文化拠点の魅力向上・・・街づくりのハブ</p> <p>○上野「文化の杜」に位置し「舞台芸術の殿堂」と言われる東京文化会館の様々な取組や他の文化施設との連携を通じて、街づくりや地域の活性化に貢献し、地域の魅力を高めてまいります。</p>		1 5 6
3	<p>あらゆる人々が芸術文化を享受・・・カベを超えて 参加・体験・鑑賞・交流・社会的課題の解決・情報の集積と発信</p> <p>○教育機関との連携や外国人の参加等を視野に入れた教育普及プログラムの充実を図ります。 ○誰もが芸術文化に気軽に触れる機会を創出しやすい環境を整えます。 ○多言語化やWi-Fi整備、音楽資料室のデータベース化等、ソフト面での充実を図ります。</p> <p>・教育機関と連携したアウトリーチや、0歳から若年層、高齢者、障害者まで幅広く参加できる海外の優れた参加型プログラムや、邦楽なども盛り込んだ外国人にも楽しめるプログラムを企画制作します。 ・オリンピック・パラリンピックならではの参加型事業として、芸術フェスティバルの中核を担います。</p> <p>・都内各所で開催する無料コンサートやワークショップの実施を推進するため、地域の文化施設等とのネットワークを強化します。 ・文化施設を牽引する施設として23区、多摩地域の文化施設との連携を強化し、地域格差の縮小を図ります。 ・都内から全国へ繋ぐネットワーク構築を図ります。</p> <p>・館内サインや上演前のアナウンス等の多言語化を図ります。 ・高齢者や障害者に向けたハード面とソフト面でのバリアフリー化を促進します。 ・音楽・舞台芸術情報の一大集積地として、音楽・舞台芸術に関する価値ある情報を的確に収集・整理・提供して音楽愛好家や研究者等の活動をサポートし、日本の音楽界全体の水準向上に寄与します。更に、それらの情報をデータベース化することで、時代のニーズに応え世界に向けて発信していきます。</p>	<p>・アウトリーチの拡充 ・参加型事業の拡充</p> <p>・上野地区文化施設との連携 ・都立文化施設との連携 ・都内文化施設との連携 ・全国公立文化施設との連携</p> <p>・ホスピタリティの強化 ・音楽資料室の拡充</p>	2 . 3 . 5 . 6 . 7
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団		

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
(3) 東京文化ビジョンの実現に向けた取組

文化戦略	文化ビジョン実現に向けた取組	主な展開	基本方針
4	新進若手の発掘・育成・・・人を育む 新進演奏家等専門人材の発掘・育成、活躍の場の創出	<p>次代を担う新進アーティスト、子供たちの豊かな未来を育み人々の生きがいを提案するワークショップリーダー、舞台芸術を支えるアートマネジメント人材や技術者等の専門人材を発掘・育成し多様な活躍の機会を創出してまいります。</p> <p>国際的な活躍が期待される新進アーティストを発掘・育成・支援する「東京音楽コンクール」の一層の充実を図り、多彩な研鑽の機会を創出して、芸術性と社会性を備えたアーティストとして育成・支援します。</p> <p>0歳から高齢者、社会包摂に携わる教育プログラムを支える人材を先駆的な海外劇場と連携して発掘・育成し、様々なシーンでの活躍の機会を創出します。</p> <p>若いアートマネジャーの企画・提案を積極的に受け入れ、現代ならではのツールを用いたコンサートの実現や新進演奏家の活躍する機会を様々なシーンで創出するなど、次世代の舞台芸術を担う人材を育成・支援します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京音楽コンクールの国際化推進 ・主催事業や都立文化施設、都内文化施設での出演機会の創出 ・教育プログラムへの起用による社会性育成と新たな活動の機会の創出 ・ワークショップリーダー育成プログラムの充実 ・先進諸外国劇場等との連携強化 ・都内文化施設との連携強化 ・インターンの積極的な受け入れによる育成から企画制作までのシステム構築 ・舞台芸術への参画機会を創出 <p style="text-align: center;">3 ・ 4</p>
5	都市外交を基軸に芸術文化交流・・・国を超えて 共同制作・国際連携・国際交流	<p>指定期間を通じ、国際的な創造発信・教育普及・人材育成事業を展開して、世界の優れた文化芸術を都民に紹介するとともに、東京文化会館からも世界に向けて発信し、異文化間の相互理解の促進を図ります。</p> <p>海外との舞台芸術の共同制作や先駆的な教育プログラムの国際連携や「東京音楽コンクール」の国際化を通じ、優れた舞台芸術や、音楽を媒体としたワークショップ、新進演奏家等を国内外に発信し、交流を通じて異文化間の相互理解を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術の共同制作 ・五大陸オペラ(仮称)の共同制作 ・先駆的教育プログラムの国際連携と交流 ・「東京音楽コンクール」の国際化とアジアとの連携 <p style="text-align: center;">1 ・ 2 ・ 3</p>
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団		

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
 (3) 東京文化ビジョンの実現に向けた取組

文化戦略	文化ビジョン実現に向けた取組	主な展開	基本方針
6	社会や都市の課題に芸術文化の力を活用・・・社会への活力	教育機関や福祉機関との連携	
	子供たちの舞台芸術への豊かな感性を育み、芸術文化の次世代への継承・発展を図るとともに、高齢者や障害者、社会的に孤立した状況にある人々などの社会的な包摂を図るため、音楽・舞台の喜びの体験や芸術家との直接の触れあい等を伴うアウトリーチ活動や参加体験型のワークショップなどを積極的に企画し、広く展開します。 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を目前に控え急増する海外からの観光客をはじめとした外国人の流入や、国際的な活躍が期待される子供たちの国際理解の場として等、多様な文化の交流とその理解の促進に向けて芸術文化の力を活用した事業を展開いたします。		
	教育機関等と連携し、児童・青少年に向けた参加型舞台芸術事業を提供し、豊かな心を育み、積極的なコミュニケーション能力を発揮する機会を創出することで、現代の子供たちが抱える課題の解決の糸口とします。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関との連携強化 ・アウトリーチと教育プログラムの充実 	1
	障害者や社会的に孤立した状況にある人々が芸術文化に親しむことで一般社会に参加する機会を創出するために、特別支援学校や高齢者施設、病院等の様々な機関と連携した事業を展開します。	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉分野専門家との協働やネットワークの構築 	2
	施設内に留まらない事業展開を実施し、誰もが芸術文化に触れる機会を持つことで地域の活性化促進の一助とします。	<ul style="list-style-type: none"> ・都内全域における連携、ネットワークの強化 	3
	創造発信事業や教育普及事業を通じ、多様な文化芸術の鑑賞機会の創出や、外国人等あらゆる人々が参加するプログラムによる交流を通じた互いを尊重する意識の醸成等により、異文化理解を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化芸術の鑑賞機会の創出 ・教育プログラムの充実による異文化理解の促進 	
7	先端技術と芸術文化との融合・・・舞台芸術の可能性追求		
	先端技術と舞台芸術の融合をテーマにした公演など、既存の舞台芸術の分野に留まらず、映像やファッション、ゲームやITなど幅広い分野を視野に入れた舞台芸術の可能性を追求してまいります。		1
8	東京が持つ芸術文化のちからで、都市力を引き出し史上最高の文化プログラムを実現		
	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムとして、2019年のプレ大会、2020年の本大会において、当館のミッションに則り、「文化の杜」の舞台芸術の発信拠点として、先進的で他に類を見ない魅力あふれる事業を展開し、東京の魅力を世界に発信していきます。		1 5 7
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団		

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
 (4) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組

1. 実施方針

都が主導する文化プログラムの基本方針に則り、世界最高峰の舞台芸術を提供する「舞台芸術の殿堂」としてブランド力を活用しながら、優れた公演を実施・誘致するとともに、次代の舞台芸術の担い手を育成しながら魅力あふれる事業を多角的・積極的に企画・実施し、2020年以降にもそのレガシーとして継承する事業を展開してまいります。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組

主な事業展開

文化的な祝祭感の創出

上野という好立地を活用し、「文化の杜」に位置する舞台芸術の文化施設として、様々な地域文化施設と連携しながら主催する公演事業を盛り上げると共に、貸館の利用者とも積極的に連携しながら文化の祝祭感あふれるフェスティバル「東京芸術祭(仮称)」を盛り上げます。あらゆる人が多様な音楽芸術に参加し、交流する機会を創出し、心に残る「おもてなし」を実現する「舞台芸術の殿堂」の担う役割を果たします。

フェスティバルの展開

オリンピック・パラリンピックを彩るフェスティバルの核となるオペラやバレエ、現代から未来に引き継ぐ舞台芸術の展開、多様な事業展開を通してあらゆる人が芸術を享受できる機会を創出し、「東京芸術祭(仮称)」を盛り上げてまいります。

施設の魅力を最大限に活用し、海外からの観客増加も視野にした、次代につなぐ舞台芸術を創出します。

オペラ等の舞台芸術と上質なコンサートの開催により幅広く鑑賞の機会を創出

平成31年度、32年度にはオリンピック・パラリンピックを盛り上げる「前夜祭」に位置する事業を大きく展開します。

クラシックとジャズのコンサートや、無料のコンサート、オリンピックにちなんだコンサート等、華やかな公演を活発に実施

教育プログラムを活用し、多様な芸術文化の交流やあらゆる人々が参加する機会を創出します。

国際フォーラムの開催、外国人向けワークショップの充実、障害者による舞台芸術の発表機会の創出等教育プログラムを拡充

「おもてなし」

海外からの来館者、参加者の増加に向けた多言語化の推進など、プロフェッショナルな対応とホスピタリティを持って来館者を「おもてなし」いたします。

あらゆる場面で最高のサービスを提供します。

- ・受付、案内スタッフの気持ち良い対応
- ・無料ロッカーの充実
- ・オープンスペースの快適さの追求

外国人に向けた対応を充実します。

- ・外国語案内の実施(上演前等のアナウンス)
- ・総合案内での外国語対応の拡充
- ・広報物、チラシの多言語化

チケットセンター、ギフトショップやレストランにおける魅力あるサービスを提供します。

- ・海外からのオンラインチケット購入システムの導入を検討
- ・思い出に残るオリジナルグッズの販売

多様な連携

オリンピック・パラリンピック文化プログラムによる祝祭感の創出には多様な連携が重要です。舞台芸術や教育プログラムを支える資金調達における文化庁との連携、上質なプログラムの提供における国際連携や実演家団体との連携、より多くの人々が享受するための地方自治体や文化施設との連携等多様な連携を推進し、文化プログラムの成功に繋げてまいります。

レガシーとして継承

文化プログラムの創造・発信を次代につなぐレガシーとして継承しあらゆる人が音楽芸術に参加し、交流する機会を常に提供する「舞台芸術の殿堂」の役割を果たしてまいります。

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 1 管理運営の基本方針と達成目標について
 (4) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた取組

2. 事業体系

1. オリンピック・パラリンピックに向けて創出する優れた舞台芸術を次代へ継承します。
2. オリンピック・パラリンピックを華やかに盛り上げます。
3. あらゆる人々が参加し交流する機会を創出するワークショップを実施します。
4. 障害者などの社会的弱者が舞台芸術に関わる機会を創出します。

既に実施しているMusic Program TOKYOを活用しながら「トップレベル」「誰もが享受」「参加交流」プログラムでオリンピック・パラリンピックを盛り上げ、次代へ継承する事業として以下のような体系で展開します。

以下の事業を「東京芸術祭(仮称)」のプログラムとして提案する予定です。

事業体系	展開例
次代に繋ぐ舞台芸術 文化プログラムが	「国際連携」「舞台芸術の革新」をキーワードにしたフェスティバルの『華』となる優れた舞台芸術と、トップ&フレッシュアーティストのコンサートを展開し、次代への継承に繋がります。
	舞台芸術
	コンサート
オリンピックの盛り上げ	既存の事業を拡大や新規事業により無料や低料金の幅広いコンサートを実施し、2019,2020年に『前夜祭』を開催します。
	盛り上げコンサート
	盛り上げコンサート
	あらゆる人が享受するコンサート
教育プログラム	平成25年度から実施するプログラムを拡大し、あらゆる人々が多様な文化芸術に参加する機会の創出を継続し、障害者等の舞台芸術への参加機会の拡大を図り、次代へも継承していきます。
	ワークショップ
	パラリンピックと音楽

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 2 国内外の施設等との連携の取組(ネットワーク化の推進)について

1.実施方針

全国の文化施設を牽引する役割を担う文化施設として、国内外の劇場や文化施設などと積極的に連携・協力し、海外の優れた先駆的な舞台芸術や、多様な芸術文化の魅力を広く・強く、特に子供や青少年に発信し全国に還元していくことで、次代を支える新たな顧客を創出するとともにあらゆる人々が芸術文化に参加する機会を創出してまいります。

連携	連携の取組	展開例
海外	優れた舞台芸術の積極的な共同制作や、新進音楽家の活躍の機会、欧米の先駆的な教育プログラム連携を拡大し、あらゆる人が芸術文化に参加し、交流する機会を創出してまいります。	
	舞台芸術の共同制作	斬新な作品を提案する海外の劇場と連携し、興行公演では観ることができない新しい舞台芸術の魅力を発信
	新進音楽家の国際交流	国際的な連携を構築し、海外での研鑽や活躍の場を創出
国内	先駆的な教育プログラムの実施	先行して取り組む教育プログラムを充実させ、劇場が持つ社会的な機能を十分に発揮していくために、欧米の先駆的な教育プログラムの連携を拡大
	全国公立文化施設協会の会長館として、様々な相談窓口となり、各種研修会の実施などを通じて文化施設のネットワークを強化し牽引する役割を引き続き担ってまいります。また、優れた舞台芸術を創造して都内各地や全国に還元し、また、地方劇場への企画協力や共同制作を通じて首都・東京を代表する劇場として牽引役を務めてまいります。	
	舞台芸術の共同制作・企画協力	優れた舞台芸術をより多くの観客へ提供するために、地方の文化施設と積極的に共同制作や作品提供(企画協力)を実施 新進演奏家を起用したコンサート等の地方劇場向けの企画・協力を実施し連携の強化を図りながら演奏機会を創出
都内	教育プログラムを都内各地・地方へ還元	都内各地で開催している先駆的取組を、地方の文化施設とも連携・協力して全国に還元 ワークショップリーダー育成プログラムを通じて地方の教育プログラム牽引役を育成し地域へ還元
	区市町村・教育機関等との連携	都立文化施設として、区市町村の文化施設や教育機関と連携し、区市町村自治体では実現できない芸術文化に親しむ機会を創出してまいります。 ・区市町村では実現不可能な舞台芸術の体験の機会を、自治体や教育機関、福祉機関等と連携してアウトリーチ等により創出すると共に、社会的な課題の解決の糸口となるようなニーズに対応したプログラムを各機関との協働により創造し提供する ＜具体例＞ アウトリーチ・コンサート、アウトリーチ・ワークショップ、クリニック 等 都内各地の保育園・幼稚園、小中学校、高校で開催 特別支援学校、高齢者施設、病院等で開催

事業者名・団体名 公益財団法人東京都歴史文化財団

提案課題2 [管理運営の基本方針] 2 国内外の施設等との連携の取組(ネットワーク化の推進)について

連携	連携の取組	展開例
都内	多摩地域における取組	<p>【鑑賞機会の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージックプログラムトーキョーのメインコンサートとなる「Jazz meets Classic」を八王子等の多摩地域と連携して毎年開催 ・各市町村教育機関と連携したコンサートの積極的な開催 <p>【体験機会の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立川市等の公立文化施設と連携して、0歳児から大人までが参加できるオリジナルワークショップを共催して提供 ・教育機関と連携したワークショップの実施
	都内全域でオーケストラコンサート	自治体と連携した、各地域における新進演奏家の演奏機会とプロオーケストラの演奏を聴く機会を創出する「フレッシュ名曲コンサート」や付随するミニコンサートの実施
財団	財団が一括管理するスケールメリットを活用し、音楽・舞台芸術を担う都立文化施設として、東京芸術劇場との役割を明確にして魅力的な事業を連携して展開するとともに、音楽施設と美術館・博物館という、異なったジャンルの芸術とのコラボレーションを強化し、魅力の相乗効果を図ります。	
	東京芸術劇場との多様な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・各ホールの特徴を生かした共通テーマを持つ公演を企画して、魅力の相乗効果を図る ・育成している「人材」を起用した主催事業を展開し活躍の機会を創出 ・専門的な職員の技術の共有を図り、挑戦的な舞台芸術の実現に向けた協体制度を強化 ・多角的な展開が必要な教育プログラムは2館が協働 ・主催事業への職員視察を推奨し、特徴ある制作現場のノウハウを共有 ・各施設の予約するシステムを共有し、それぞれのホール利用者に斡旋することを検討。サービス向上につとめ稼働率の相乗効果を図る
	子供の文化施設デビューを応援する事業	子供たちの文化施設デビューを応援する都美との連携企画「あいうえの冒険隊」や主催するミュージックワークショップ等の都立各文化施設が連携した事業を通じて子供たちが文化芸術に親しむ機会を多角的に創出
	教育プログラムの共同制作	次代を担う子供たちから高齢者、障害者などの社会的弱者等のあらゆる人々が参加できる教育プログラムを連携して実施し、多様な芸術の可能性を共に展開
	パートナーシップ事業(大学等)	財団のパートナーシップ事業を活用し、都内及び近隣の大学等を対象として若者の芸術文化に親しむ機会を創出
	人材育成×様々な芸術文化	新進アーティスト起用＝人材育成「まちなかコンサート」の各文化施設開催等によるジャンルの異なる芸術を繋げる役割を担う
	広報	各館の人材育成を総合的にアピールする取組の実施 広報紙＝新進デザイナー×新進アーティスト
地域	上野地区の多彩な芸術文化の発展を担う「文化の杜」新構想への積極的な取組を通じて、地域の多角的発展に寄与してまいります。	
	地域振興のイベント連携	上野地区の多彩なイベントに参画し、音楽芸術や建築物としての魅力を通じて地域の振興に積極的に寄与
	教育プログラムの連携	藝大や上野学園などの近隣の大学や文化施設と協働し連携教育プログラムの発信拠点として機能
事業者名・団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団	

提案課題2 「管理運営の基本方針」 2 国内外の施設等との連携の取組(ネットワーク化の推進)について

2.具体的な取組と展開

(1) コンサートやオペラ等の舞台芸術の共同制作／巡回公演

多摩地域では実現が困難な質の高いコンサートの開催やオーケストラを起用したコンサートを東京文化会館の巡回公演やバックアップとして開催してまいりました。

今後は教育機関との連携した特別支援学校への鑑賞機会の提供や、都内文化施設の牽引役として、都内全域における鑑賞機会の一層の創出に努めてまいります。

また、舞台芸術においても、ベルギーとの共同制作オペラや多摩地域での巡回オペラ公演、制作した舞台芸術作品の都外文化施設における巡回公演の実績をあげてまいりました。

今後は、東京都と共催し実施する「五大陸オペラ(仮)」の地方の複数の劇場との共同制作による開催や、ニューヨークにおける国際共同制作の実現、実演家団体との協働による巡回公演の実現など、国内外で構築したネットワークを活用した全国規模の舞台芸術の共同制作の拠点として機能してまいります。

(2) 教育普及における連携

国際的な連携に大きな一歩を踏み出して間もない「教育普及の拠点」としての役割を担う取組みに、国内外から大きな注目を集めています。

今後は、社会的な課題の解決の糸口となるべく、福祉機関とも連携しながら、障害者や高齢者等へプログラムを制作し、提供してまいります。

このような長期的な視野に立ち推進すべき事業については、海外のネットワークの活用はもとより、育んだノウハウを都内文化施設、教育機関、都外の文化施設との連携を通じて全国規模で共有し、拡散してまいります。

(3) 人材育成における連携

「東京音楽コンクール」を通じて多くの新進音楽家を輩出してまいりました。

今後は、コンクールの国際化を発展させ、特にアジア圏の音楽大学等と連携しながら、日本と海外の新進アーティストが切磋琢磨して成長していく機会を創出してまいります。

また、海外における活躍の機会創出にも努め、アジアでの活躍の場の創出や舞台芸術公演における大学との連携による海外での演奏機会の創出を目指します。

ワークショップ・リーダーの育成プログラムには、都内のみならず、全国各地から参加者が集まります。培ったノウハウは地方へも還元されていますが、今後は更に連携を進めて、双方のプログラムの共有や、人材の交流の機会を創出し、幅広くプログラムが拡散していくことを目指してまいります。